

# ストーリーで巡る 東有年周辺の歴史文化

## ストーリー 1 東西・南北の交通ー近世山陽道と千種川ー

千種川は、古くから南北の交通を担った川の道。近世に川を行き来した高瀬舟は、米や塩など生活物資を運ぶ重要な手段でした。一方、陸路は東西を結ぶ街道や古道があり、近世には西国街道が通じていました。

近代になるまで千種川に橋は架けられず、交通のうえで壁になっていましたが、その一方で、川待ちの人々を泊めるための宿場町「有年宿」が栄えました。



## ストーリー 2 古代の遺跡めぐりー文化財の宝庫ー

遺跡が数多く残され「文化財の宝庫」と呼ばれる有年地区。弥生～古墳時代の大規模集落である東有年・沖田遺跡、市内唯一の前方後円墳である放亀山1号墳、北の山塊に分布する古墳時代の隆盛と特徴を物語る貴重な文化財を現在も見ることができます。



## ストーリー 3 夢のあとー山城と山岳寺院の風景ー

中世、戦乱に大きく巻き込まれた有年地区には、市内最大の有年山城跡をはじめとした中世山城が多数築かれました。現在は石垣や削平地、土橋などが残されるとともに、広く望める眺望を楽しむことができます。

加えて、有年地区には同時期の山岳寺院が多数築かれており、現在も石造物や建物礎石が残っていて、当時の様子を偲べます。



## ストーリー 4 しぶらの里ー豊かな農村風景ー

かつて江戸文化研究者の西山松之助は有年地区を「しぶら（ヒガンバナ）の里」と呼びました。有年地区は、現在でも豊かな農村・里山風景が広がり、時間が止まったかのような感覚を覚えます。道中そこかしこにある歴史を重ねてきた多くの遺産、そしてヒガンバナがそこに彩りを与えてくれることでしょう。



ここに掲載したストーリーは「赤穂市歴史文化基本構想」の成果をまとめたものです。

